

JICA シニアボランティア千葉

SV ニュース千葉 第27号

2017年9月15日発行
千葉県 JICA シニアボランティアの会
Info.chibajicasvob@gmail.com

本号目次

通常総会、人事 公開講演会	1-2
活動報告会	3-4
出前講座	4-5
派遣国事情	6-7
フェスティバル 県庁表敬訪問 ボランティア秋募集	8

第23回公開講演会・平成29年度通常総会を開催

5月13日(土)午後1時半より千葉市中央区の千葉市市民会館で、来賓2名をお迎えして公開講演会と通常総会を開催しました。第23回公開講演会は、当会の活動内容を広く一般の方にも理解してもらうために講師は2名とも当会会員がとめました。(2頁に詳細を掲載)

引き続き平成29年度通常総会が行われました。出席者28名、委任状51名、会員総数101名の78%で総会は成立しました。

議案審議は1号から5号までと、7号議案は異議なく承認されました。6号議案の1項役員幹事1名増加についていろいろ意見が出ましたが、最終的に賛成多数で認められました。2項の役員選出方法についての但し書き追加は否決されました。更に3項の規約改正履歴は末尾のみ記載とする件は承認され、全ての議案の審議が終わり、総会は閉会しました。



パラグアイの野鳥

会長 ご挨拶

渡邊要吉

今年は大変暑い夏が続き、時ならぬ強風が襲い水害も多く気象の異常を感じずる夏でしたが、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年も6月、出国・帰国のボランティア達と県庁を表敬訪問しましたが、ボランティア達の元気な姿を見ると日本の将来の明るさを垣間見る気持ちが致しました。1965年日本政府が初めて青年隊を派遣してから一昨年で50年、青年隊及びシニアボランティアの数は今年6月現在、全国で50,761名に達しました。その内千葉県出身のシニアボランティアは、派遣中の11名を含めて387名(内女性47名)に達しています。

当会の会員は現在102名ですが、それぞれ派遣先で苦勞し、問題と取り組んだことは何よりも尊い経験だったと思います。今年も8月26日(土)に浦安で行われた活動報告会では、最近帰国した4名の方々が活動報告を行いました。いつも出席して

感じることは、時代は変わっても舞台は同じということであります。自分達が苦勞したことを思い出す、よき友の会であることが何よりと感じます。この数十年に及ぶ国策としての海外でのボランティア活動が日本の現在と将来に大きく貢献していることは事実であります。多くのシニア達が帰ってきて、苦勞話をし、それに耳を傾けることは何よりも大きな楽しみです。



さて、今年も5月13日の総会で新役員人事を行い、下記のメンバーで会の運営を行ってゆくこととなりました。それぞれの役職を積極的に且つ慎重に行ってまいりたいと考えておりますので何卒ご理解、ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

平成29年度 新役員人事

・会 長 渡邊 要吉 (船橋市)	・幹事 岡本 芙佐子 (印旛郡)	・幹事 弓 貞子 (浦安市)
・副 会 長 村田 淑子 (東京都)	・幹事 崎元 雄厚 (千葉市)	・幹事 渡辺 章 (松戸市)
・事務局長 濱崎 丘 (柏市)	・幹事 添野 良一 (鎌ヶ谷市)	
・会計監査 佐藤 聡 (東京都)	・幹事 登内 明 (浦安市)	

第 23 回公開講演会

前半の演題は写真撮影が趣味の高瀬義彦氏による「パラグアイの多様な野鳥との出会い」で、日本ではなかなか見ることのできない野鳥の生態が次々にスクリーンに映し出されました。

後半は当会現会長渡邉要吉氏による「スペインのハボン姓の由来について」で、支倉遣欧使節団の末裔を訪ねてスペインの片田舎まで行かれた話に参加者も引き込まれました。お二人が海外で探究した面白い話は約 90 分に及びました。

「パラグアイの多様な野鳥との出会い」 — 高瀬義彦氏

パラグアイは旧世界にある日本から見れば、地球の反対側の新世界にあります。

従って、両世界に棲む鳥はほとんど別種です。パラグアイに住んで、緑豊かな自然とその環境に適応した野鳥の多さに驚きました。

私は、休日や旅行の時に野鳥の写真を撮るのが楽しみで、パラグアイだけで 100 種を超える野鳥の写真を撮りました。

近隣国を含めれば、200 種を超えるでしょう。

おかげで仕事に趣味に充実した海外ボランティア生活を 3 年間送ることができました。



研究所の庭に住み着いた
アナホリフクロウの幼鳥



赤い花の灌木のアオムネヒ
メエメラルドハチドリ

今回は首都アスンシオン近郊で出会った野鳥に限定し、小さい特徴のある鳥と、大きい猛禽類等を交互に紹介しました。

「スペインのハボン(Japón)姓の由来について」 — 渡邉要吉氏

— 支倉常長遣欧使節団の末裔を訪ねて —

1987 年 10 月から 1992 年 7 月まで 5 年弱の間、私はスペインのマドリッドで暮らしました。1992 年のバルセロナ・オリンピックに向けて、スペインへの日本企業の進出が目立った頃でした。

ある日、セビリアの市長と会う機会があって、仕事の話が終わった後、市長が次のように話されたのです。「セビリアの南にコリア・デル・リオという町があります。

そこには Japón(ハボン)という名字の人が多く住んでいます。その町には今から 400 年前余昔の 1600 年の初め、支倉常長一行が来て泊まった村で、私は彼らは日本人の子孫だと思っています」という内容でした。

日本からスペインに渡った例としては天正少年遣欧使節があり、その後慶長 18 年(1613)には伊達正宗の命を受けた遣欧使節団が海を渡りました。支倉常長の率いるこの一行は、

仙台藩とスペインの通商交渉の使節団で、大任を背負った常長は 7 年に及んだ長い旅の後失意と冷遇のうちに帰国し、2 年後に死んでいます。

彼ら日本の侍の子孫と思われる人々が今も健在で、ハボンと名乗って、スペインで暮らしていることはあまり知られていませんでした。

このことに私は大変興味を持ち、何ヵ月か後にその村を訪れ、ハボンと名乗る人々と会うことができました。彼らハボンさん達は自分たちの祖先は日本人であると信じているのでした。

私は何度もその町を訪れ調査を続け、その結果を 1989 年 9 月 1 日の日本経済新聞朝刊の文化欄に載せました。これをきっかけに当時新聞各社が報道して、瞬く間にこの話は日本中に広まりました。



ハボンさん(右)

お知らせ

① パネル作成用の写真募集

県内各地のフェスティバルや会の催しなどで、会員の活動状況の写真をパネルにして展示する予定です。

あなたの任地での活動がわかる写真を募集します。あなたの写真を、Info.chibaJICAsvob@gmail.com にメールで 9 月 30 日までに送って下さい。氏名、任国、赴任年度、職種、メールアドレスを明記して下さい。

② 現地からのお土産の寄付のお願い。

フェスティバルで国際クイズをして楽しく学ぶ機会にしています。クイズの正解者には、珍しい当会ならではの景品を渡して喜ばれています。

あなたの赴任地の品物を寄付して頂けませんか。総会や活動報告等の時にお持ち下さい。

第 23 回活動報告会を開催



8 月 26 日（土）、
帰国間もないボランティア
による報告会を浦安市
国際センターで行いま
した。渡辺会長の挨拶、
来賓者 JICA 東京国際

センター長谷川氏と、浦安市国際センター長渡辺氏のお言葉
の後に 4 名の報告が行われました。

報告会には暑い中 40 余名が参加、登内幹事が進行を担
当し、報告者からは活動内容や現地での体験や感想などが
話されました。多数の質問意見があり、時間一杯でしたが有
意義な報告会になりました。

「首都プノンペンの教育と学校建設」 篠原 温雄

私は JICA 海外シニアボランティアとして、カンボジア王国、プ
ノンペン市の教育青年スポーツ局で 2010 年 3 月から 2 年間、
さらに 2014 年 10 月から 10 か月間活動し、2015 年 7 月
に帰国しました。

カンボジアは過去の内戦の影響により、質の高い教育を受
けた人材が極端に不足しています。さらに、現在では義務教育
段階での学校不足により、各学校では 2 部制の授業が行わ
れています。午前の部（7 時～12 時）、午後の部（1 時～
5 時）の授業です。特に地方では教育環境は依然として問題
を抱えています。カンボジア政府はこの現状を改善するために、
基礎教育就学者を 3 倍に増やすことを目標にして取り組んで
います。私の配属先であるプノンペン市教育・青年・スポーツ局
は、国の教育省の傘下であり、その施策に則って事業を進めて
います。プノンペン市内の公立幼（22）・小（164）・中

（33）・中高（33）
の学校の教育環
境の整備、教育
内容の改善充実、
教員の採用、研
修など教育に関す
るすべての業務を
行っています。



プノンペン市
では道路、橋、建物など、社会基盤の整備が急速に進んでい
ますが、カンボジアが自力で社会整備や経済復興ができるまで
まだ時間がかかりそうです。日本をはじめ各国の社会整備や経
済協力の援助支援はまだ必要だというのが帰国した今も強く
残っています。

「メキシコ、トルーカの 1 年」 山口智史

25-1 期でメキシコへ品質管理・生産性向上の職種で派遣
された山口と申します。

私は民間企業に所属しておりまして、その企業内で JICA の
民間連携ボランティア制度を利用した研修プログラムが制度化
されています。そのプログラムを通して、今般 JICA のシニアボ
ランティアとしてメキシコシティの西、約 50km のトルーカという
都市に派遣されました。

トルーカ市はメキシコ州の州都で人口は約 80 万人の中堅
都市、周辺の行政区を含めれば 150 万人程度の都市圏の
中心都市です。埼玉県さいたま市（旧浦和市）と姉妹都
市なので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。それぞれの
首都との距離や規模間は浦和とトルーカでは共通した印象が
あります。標高 2,800m の高地に位置し、日差しが強く南国
のイメージがあるメキシコですが、冬は東京と同じくらい冷え
込みます。これには堪えました。

配属先は日本の工業高校に相当する学校で、車で 50 分

ほどのメキシコ
全体を束ねる
本部機構とも
打ち合わせの
機会を持ちな
がら、改善活
動の手法や考え方を伝え、それをテキストに落とし込む活動を
してきました。



会社との約束で、派遣期間は 1 年（研修期間を含めると 1
年 3 か月）と短く、持っている経験知識を十分に先方に伝える
ことができたかどうか、また、伝えたことをしっかり受け止めてもら
えたのか、確信が持てないでいることが心残りでもあります。ただ、
私の周りにいた方々に温かく迎えられ、公私ともに支えられて異
文化の中を楽しく生活することができ、活動期間を全うするこ
うことができました。非常に貴重で有意義な経験をさせてもらったもの
と思い、感謝しています。

「派遣国から見た日本の魅力」 添野 良一

私は、昨年ウルグアイに剣道指導のため、シニア海外ボランティアとして派遣されました。まず、剣道での応募動機を話し、ウルグアイ人の暮らしの様子、剣道指導の様子及び現地の人々との交流を紹介しました。

現地の人々から日本を見たイメージを、前に行ったことのあるマレーシア、ウズベキスタンも含めて述べました。

帰国後私は、「一杯のラーメンの味」にも日本の伝統文化を感じるようになりました。私たちの父や祖父の時代の努力に感謝しなければと思いました。私は、このように良い経験をさせて

もらったことや現地の人から日本の歴史・伝統文化は立派だと尊敬されていることを報告しました。

まとめとして、私のように良い経験ができますから、聴衆にも「ぜひシニア海外ボランティアに参加して下さい。」と提案しました。



「ウズベキスタンで感じたこと」 田畑成章

2017 年 3 月までの 2 年間、タシケントイスラム大学経済学科で学部生・院生に経営関係科目の授業を行いました。

ある時、親しい学生に一週間ぶりにあったら随分痩せたのに気づきました。「いや〜いまラマダン（断食月）ですから」との返答。うかつだったと思い、同僚や学生に取材してみると大多数が日中飲食していないことを知りました。このように派遣先大学は教職員学生とも敬虔なムスリムが多い職場でした。彼らは戒律をどの程度守っているのだろうか、いろいろと探りを入れた結果、ムスリムとして望まれる行動をおのおのが出来る範囲でやろうと努めているが、肩に力が入っていないことを知りました。他人の守り方に関心を見せず、戒律を守らない（守り方の緩い）友人知人他人への批判は一度も耳にしませんでした。学生の私的な集まりに呼ばれ、持ち込んだウォッカをひとり飲む時も、それを責める眼は感じません。**イスラムは基本的に寛容なもの、**というのが 2 年間で得た結論です。

私は安全に関して鈍いわけではありませんが、滞在中不安を感じたことは一度もありません。街で見かける警察官の数や

厳重警戒に着任当初は疑問をもちました。しかし一見過剰なチェックも自分に向けているというより自分を守るために行われていると思えるようになりました。ソ連崩壊・独立後この国や周辺国が経験したテロや混乱を学習するにつれ、**治安維持は何よりも政治の根幹**だと再認識しました。

滞在中、25 年間トップにあった初代大統領が死去し後継者選挙が行われる場に遭遇しました。最大の政治リスクはワンマンの死去だと教室でも云ったりしていましたが、いままでのところ円滑に推移しています。これは驚くべきことなのですが、あまり注目されていません。**米欧メディアや国際機関による「強権政治体制」への批判にはどこか誤りがあった証拠ではないか**と思っています。



出前講座実施報告 （2017 年 1 月～2017 年 6 月）

「ブータン王国とは」

1 月 25 日(水) 講師 三輪達雄 会員

柏第八小学校にて 6 年生 118 人を対象に、講座が行われました。ブータンの正装である「ゴ」を着ての登場は、それだけでブータンという国の雰囲気が出ていました。話は、ブータン王国の地理的位置から入り、九州ほどの大きさでありながら北の氷河がある 7,500m 級のヒマラヤから南のジャングルに至るまで自然の変化が大きいです。

約 70 万人が私たちの感じる便利さや満足感と違う、高い「幸福感」を追求して力を合わせながら暮らしている様子が語られました。10 年前に立憲され王様主導から国民主権の民主

主義国家となったこと、チベット仏教の修行の厳しさと輪廻転生の教えに添った人々の殺生をしない生活習慣、未だに牛が田畑を耕し、学校へ子供たちは正装で 1 時間かけて歩いて行くこと、国語以外は英語で教育が行われていること、食事はご飯に枝豆やチーズと唐辛子を混ぜたものを



ほぼ毎食それだけを食べていることなどが、スライドと共に分かりやすく紹介されました。

生徒からは質問があり関心の高さが伺えました。45 分間と

いう短い時間でしたが生徒達は、異文化理解や豊かさについて考えるなど、刺激的な時間になったのではないかと思います。

「ネパールに住んで気づいたこと」

2 月 24 日（金） 講師 和田素賀子 会員

市原市有秋公民館において 23 名の参加者を対象に講座を行いました。専門は日本語教師です。

ネパールの面積は北海道の約 1.8 倍、人口は約 2,883 万人で、首都はカトマンズです。36 以上の多様な民族で、宗教はヒンズー教徒 80%、仏教徒 10%、その他 10%よりなります。

気候は温帯性気候で、雨季と乾季があります。ネパールでは時間はゆったりと流れ、人と人との関係を大切にしています。食文化は、インド料理、中華料理、チベット料理が融合されたもので、野菜が比較的多くてヘルシーです。香辛料は強すぎず日本人の口に合いやすいです。電気、水、ガソリン等生活に密

接に関係した物の供給はまだ不安定です。

当地の人々や日本語学校の交流の様子のほか、ネパールの山岳、カトマンズ盆地、お祭りなどについて

スライドを見せながら細やかに説明しました。休憩時には、マサラチャイと香辛料を体験させて、参加者もちょっとしたネパール気分を味わうことができました。

多様な文化への質問が多数ありました。シェルパもグルカも職業階層の民族であることが分かりました。



「JICA ボランティア活動-ヨルダンでの体験-」

2 月 25 日（土） 講師 小久保亮一 会員

袖ヶ浦市平岡公民館において 12 名の参加者を対象に講演を行いました。

講師の専門は化学工学で、ヨルダンのヤルムーク大学で 2 年間、水と環境について指導しました。

日本人には分かりにくい複雑な中東、パレスチナ問題の原因について、旧約聖書まで遡りながら解説しました。現在のアラブ諸国間の争いやイスラエル建国に係るユダヤ人とアラブ人の紛争は、第一次大戦で敗戦した旧オスマン帝国領の分割に際して、英国が主導したフランス人、ユダヤ人、アラブ人等を相手とする矛盾した三枚舌外交が主な原因であると説明しました。さらに、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教が同根の宗教であ

りながら、他者を認めない強烈な一神教で自己主張が強いために、問題を複雑にしていると述べました。

後半、小久保弘子夫人がパレスチナ難民と日本女性の国際交流について話し、さらに色鮮やかで手の込んだ現地産の刺繍を展示し、また多数の映像を示しながらパレスチナ刺繍について話しました。なお、女性の出身地と未婚、既婚等は、衣装に縫い込められている刺繍の模様と色で判別されるそうです。



「大洋州におけるボランティア活動」

4 月 24 日（月） 講師 渡辺 章 会員

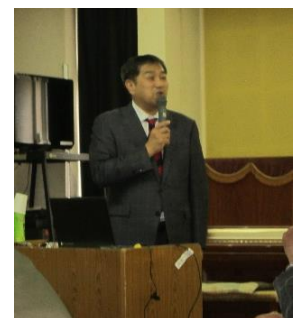
市原市南総公民館において、75 名の参加者を対象に出前講座を行いました。予防接種のアドバイザーとして、日本の提供した船でミクロネシアの主要な島々を巡回し、公衆衛生関連事項を指導しました。

日本の 3,000km 南に位置するミクロネシアは、550 の島よりなり、そのうち人の住んでいる島は 55 島で、人口は約 11 万人です。戦前の日本委任統治による影響が強く残っており、親日的です。リヤカー、電信柱、病院などの日本語が今でも使用され、醤油は日常生活に使われています。

多くの島では電気はなく、日用品、ガソリン等は 3 ケ月毎に

くる船便で補給されています。経済は漁業と農業（ココナッツとキャッサバ）が主ですが、国の歳入の約半分は米国からの援助で成り立っています。

ミクロネシアでは子供の教育や理数系の教育の水準が低いことが講師より指摘されました。数多くの美しいスライドを用いて、南太平洋の美しさ、人々の生活、彼等との交流、食べ物など幅広い分野について紹介したので、ミクロネシアに関する基礎知識とどんな国かというイメージが参加者にもよく伝わりました。



「エルサルバドルにおける品質管理と生活の実際」

5 月 19 日（金） 講師 渡邊要吉 会員

千葉商大において、1 年生 85 名、2 年生 70 名を対象にそれぞれ 90 分の出前講座を行いました。

エルサルバドル共和国において、2 年間 ISO9001（世界標準化機構）を中心とする品質管理の技術指導を行いました。

同国の人口は、600 万人、面積は四国に近い 2.1 万 km²、縫製と農業を主産業としています。国民性は勤勉実直で親日的です。

国際協力に関し、講師は JICA の援助活動についてかなり詳しく説明をしました。学生たちは、具体的な ODA 活動

について知ることができたと思います。学生は海外青年協力隊に強い関心を示しました。

また、多数のスライドを用いて、現地での日常生活、住民との交流、安全対策、食べ物、特産品等について紹介しました。

さらに国際感覚の磨き方として、身の安全の確保、自分の意見を持つことの大切さ、世界のスタンダードで考えること、外国語の合理的な習得方法、上手な海外生活のポイントなどについてわかりやすく説明しました。



「エルサルバドルでの活動」

6 月 26 日（月）講師 渡邊要吉 会員

千葉市幕張ベイタウンコアの研修室で、NPO 法人フォーラムパートナーズの定例会において、約 40 名の参加者の前で講演を行いました。

任地への 1 回目の派遣では、太平洋・大西洋双方からの物流陸路開発の壮大な計画が進む中で、その起点になる港の開発へのアドバイス、2 回目は中小企業の品質管理、中でも ISO9001（世界標準化機構）への取り組みを支援することが任務でした。

言語や外国生活には慣れている講師が暮らしたエルサルバドルでの活動や国情の話は具体的で、写真や民芸品などからも現地の様子が分かりやすく伝わりました。中米で親日度 No.1 と自称する国で勤勉な日本人に敬意さえ持っている国

民性、世界最強な強盗団組織（MARAS）の存在に加えて、政情不安定の中で暮らす人々など、多局面からエルサルバドルについて考える時間になったと思います。約 2 時間の講演時間でしたが参加者からは 7、8 件もの質問があり、国際協力、異文化理解、地域開発などを目的にしているこの会ならではの会員の関心の高さを感じました。



エルサルバドルの民芸品

派遣国事情

現在、派遣中の会員・最近帰国した会員のホットな現地情報です



マーシャル

マーシャルの自然と生活の紹介
職種：コンピューター技術 村田径聡

私が派遣されている国、マーシャル諸島共和国についてご紹介します。場所は日本から南東に約 4,500km で時差は 3 時間、赤道より少し北に位置します。マーシャル諸島は非常に多くの環礁と島から成り立っており、私の住む Majuro もその環礁の一つであり、首飾りのように非常に細長い輪のような形をしています。

第一次世界大戦において日本が占領し、約 25 年もの間、日本の委任統治領となっていたこともあり、日本人の親戚を持つマーシャル人は多く、非常に日本のことをよく知っており、好感や親近感を持って接してくれます。日本語が元になったマーシャル語も多く、マーシャルではソフトボールがさかんなのですが、マーシャル語で「Yakyu」と呼ばれています。食事に関しては、マーシャル人はインスタントラーメン、特にサッポロ一番が好きでよく食べられています。その他、主食としてごはんやチキンの BBQ 等があげられます。

私の活動場所はマーシャルの通信局で、インターネット・サービスの向上をめざして、



ネットワークの調査、解析等を実施しています。マーシャルの情報については Facebook でも随時配信しておりますのでご興味のある方はご覧ください。写真は私の家から見える風景です。すぐそばの海では、シュノーケリングでたくさんの魚を見ることがで

きます。

(<https://www.facebook.com/profile.php?id=1575763190>)



アルゼンチン

派遣先の概要と日常生活

職種：冷凍機器・空調 中村 陽典

最近 INTI(派遣先)の同僚が、ボリビア土産に持ってきた、かなり大きな蟻を炒めたものを食べる機会がありました。(ぱりぱりした食感のみで無味、余り美味しいとは思えませんでした)この際、INTI 職員と、インターネットの記事に出ていた、中国、韓国、東南アジアの、犬、猫食が話題になりました。彼らの感覚では、自分たちのパートナーである犬、馬を食べる文化には嫌悪感を感じるようです。私も、牛、豚、鶏、魚は当然として、馬、リヤマ、サソリ等いろいろなものを食べてきましたが、さすがに、蛇、犬、猫は食べる自信がありません。

生活、社会面のトピックス

- (1) 日本庭園で開園 50 周年の記念式典が開催されました。日系団体による日本各地の郷土芸能、太鼓のパフォーマンス、各種日本武道のデモンストレーション等の記念行事が催され、日本料理や民芸品の屋台も出展されて、多くの入場者で賑わいました。生活を楽しむため、目一杯消費するこの国の人達の生活パターンに接していると、日本人との文化の違い、考え方の違いを痛感します。
- (2) 今年の賃上げは 20%前後で、殆どの政府、公共機関、企業で決着がついていますが、教職員組合だけは、賃上げについては 21%で粗合意したものの、スト参加者の処分撤回を求め、依然ストや交渉を断続的に繰り返しています。思想的な背景については、良く分かりませんが、子供を犠牲にした頑なな姿勢には、世論も必ずしも好意的ではないようです。
- (3) 20 世紀前半に、鉄道大国だったアルゼンチンは、広い国土全体が鉄道網でカバーされていましたが、今ではその大半が放棄され、廃線になっています。マクリ政権（現政権）は、輸送力を強化し、経済を活性化するため、この鉄道網を再建、再活用することを決定、去年の安倍

首相との会談に加え、本年の日本、中国訪問の際、両国の援助、協力を求め、合意しました。この方針に沿って幾つかのプロジェクトが立案、推進されていますが、今般その一環として、Buenos Aires – Mar del Plata 間の鉄道路線を復活することとし、本年 12 月から営業を再開することになりました。但し、採算を考慮し、料金は廃止前の 240 ペソから 41%値上げされ、340 ペソになるようです。(両都市間 340km で 2,400 円ですから、此れでも日本と比較すると割安ですが)

- (4) アルゼンチンでは選挙関連の活動が活発化しています。この選挙は、マクリ政権の経済改革、開放政策に対する国民の評価という意味を持ち、前大統領キルヒナー女史も、現政権で撤廃または減額された、補助金、国民福祉の復活を掲げ、現政権に対抗する勢力を糾合していますので、マクリ政権にとって、正念場と位置付けられています。尚、政府統計によると、2017 年第一四半期までの GDP は農業、建設、運輸、通信セクターの好調により、3 四半期連続で微増していますが、一方で、インフレにより貧困層も増加しており、貧富の差が拡大している現状を国民がどう評価するかが鍵になると思います。
- (5) 昨年同様、勤務先の INTI の同僚たちが誕生パーティーを開いてくれました。こちらの習慣に従い、私はケーキを準備、彼らはお金を出し合い、誕生祝を用意してくれました。去年はマテ茶のセットでしたが、今年はドレスシャツと、



アルゼンチンで一番人気のあるワインのセットを贈ってくれました。

平成 29 年 4 月から 7 月までに「千葉県 JICA シニアボランティアの会」に合計 38,278 円の寄付が以下の方々より寄せられました。お礼申し上げます。

高瀬義彦氏 渡辺 章氏 中井邦夫氏 渡邊要吉氏 宮崎征司氏 三輪達雄氏（日付順）

国際フェスタ CHIBA

5 月 27 日 (土)

於：神田外語大 (幕張)

千葉市美浜区にある神田外語大学で千葉県国際交流センター主催の国際フェスタが開催されました。当日は良いお天気の上、幕張チャリティ・フリーマーケットも同時開催だったので、出足が良く 2,000 人以上の参加者がありました。25 団体の出展があり、スタンプラリーで景品をという意気込みの方も含めて、当会のブースにも 500 人ほどが立ち寄って下さり、会の活動や応募についての説明や国際クイズの参加者への対応に、役員幹事・会員 6 名が大わらわという状況でした。

当会の国際クイズは国際事情をテーマにしているため難題もありました。「その国はどこに？」「後で地図を見せてあげる

よ」などと親子の会話が盛り上がっていました。チャレンジして当たれば景品（会員からの諸外国のお土産の



寄付) をゲットと皆さん張り切って参加して下さいました。参加者と共に楽しい時間を過ごしました。

JICA シニア海外ボランティア千葉県庁表敬訪問

平成 29 年 6 月 16 日 (金) 11 時 10 分より JICA ボランティアの帰国隊員及び出発隊員による県庁表敬訪問が行われ、当会より会長、副会長、事務局長が出席しました。

式典は千葉県庁笹生国際課長の司会で行われ、ボランティア 22 名が出席しました。その内訳は、帰国シニアボランティア 1 名、帰国青年協力隊員 1 名、出発青年協力隊員 20 名でした。

JICA 東京国際センター長谷川次長の挨拶では、最近の JICA の理念・方針として、開発途上国の支援だけでなく、帰国されたボランティアは、その後もボランティア活動を日本の人々に知っていただくように、活動に加わって欲しいとの話がありました。

次にボランティア隊員の帰国者、出国者の挨拶があり、最後に森田知事の代理富塚部長の挨拶では、JICA 派遣 50 年



の歴史の中で、1,800 人の千葉県出身のボランティアが派遣国との信頼関係を作ってきました。派遣国に千葉の魅力を発信し、元気に帰ってきてほしいと激励の言葉で締めくくられました。

JICA シニア海外ボランティア秋募集説明会

シニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の秋募集が 9 月 22 日 (金) から 11 月 1 日 (水) まで行われます。

千葉県内では、右記の通り募集説明会 (体験談 & 説明会) を開催いたします。会場ではボランティア経験者による個別相談もあります。両日ともシニア海外ボランティアと青年海外協力隊との合同説明会です。申し込みは不要ですので、興味のある方は会場に直接お越しください。

JICA シニア海外ボランティア秋募集説明会

・9 月 27 日 (水) 19:00~21:00

船橋フェイスビル 6 階 きららホール

(JR・東武「船橋駅」より徒歩 2 分)

・10 月 14 日 (水) 14:00~16:00

千葉市生涯学習センター

(JR 千葉駅中央改札を降りて、千葉公園口から徒歩 8 分)

(千葉モノレール「千葉公園駅」から徒歩 5 分)

* いずれも参加費無料、入退場自由です。